

みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	宮城県手話通訳問題研究会	
代表者名	宮 澤 典 子	
連絡先	宮東優子 TEL : 022-376-6371 FAX : 022-376-6371	E-mail ringo-910@ezweb.ne.jp

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	宮城県手話通訳問題研究会各行事における情報保障（要約筆記・盲ろう者通訳介助）事業
事業の目的	主催行事において、手話通訳ではなく文字支援を必要とする聴覚障害者や盲ろう者など、より幅広いニーズに合わせた情報保障を行う。
事業の具体的内容	2回の学習会（7月・10月）と特別手話講座（2月）に参加者の希望に合わせて要約筆記や盲ろう者通訳介助の情報保障を提供する。 （手話通訳はこれまでも付けている）
活動の開始から完了までの流れ	<p>第1回学習会 2019.7/21（日）石巻保健相談センター 「ひとめぼれ講座と旧優性保護法裁判を学ぶ」 要約筆記（PC通訳）4名 ※盲ろう者の参加はなし</p> <p>第2回学習会 2019.10/14（月）多賀城市中央公民館 → 台風19号により中止 この中止により、次回行事の託児保育に助成金を充てることを相談・決定する。</p> <p>特別手話講座 2020.2/9（日）仙台市福祉プラザ 「クロスロードから学ぶ防災！&手話との半生を語る」</p>

	<p>要約筆記（PC通訳） 4名 盲ろう者通訳介助 3名 託児保育 7名（時間交代）</p>
活動の成果と教訓	<p>1回目の学習会は盲ろう者の参加がなかったが、要約筆記の希望申し込みがあり、従来の手話通訳とPC要約筆記通訳をつけた。</p> <p>2回めの学習会を台風により急遽中止にするというアクシデントがあったが、特別手話講座では盲ろう者の参加もあり、充実した内容になった。PC要約筆記通訳があることで、手話と文字で確認できる体制が準備できた。これは聴覚障害者だけでなく、聞こえる人にとっても役立つことを実感した。</p> <p>また、同じ「情報保障支援者」という立場でありながら少し距離がある「手話通訳者」「要約筆記通訳者」「盲ろう者通訳・介助員」が同じ現場にいることでお互いの理解を深め、今後の連携や連帯につながることを確信した。</p>
今後の展望など	<p>「情報保障」は障害者差別解消法の合理的配慮の観点からも必要不可欠のものであり、主催者が準備すべきものだが、現実的にはかなりの金銭的負担がある。福祉団体はどこも余裕のない中で熱意だけで乗り切っている面があるので、情報保障料をどのように予算に入れていくかが今後の課題である。</p> <p>（年に数回でもいいから自治体の「意思疎通支援事業」を福祉団体の行事に使えないかな、と甘い夢をみたりします）</p>

2、助成金使途報告書

■ 収入の部

確保した資金内容	金額（円）	備考
福祉活動助成金	150,000 ★	
特別手話講座 参加費	152,000	会員 2,000円×43人 未会員 3,000円×22人
託児 申し込み料	2,000	1,000×2人
合計	304,000	

■ 支出の部

助成金→★印

費目	内容	予算額 (円)	実支出額
講師謝礼	学習会 30,000×1回 特別手話講座 30,000	60,000	10,400 30,000
旅費	学習会 1回 特別手話講座 1回	10,000	3,860 0 (全通研より)
手話通訳料	学習会 特別手話講座	12,000 12,000	12,000 12,000
要約筆記通訳料★ (交通費含む)	学習会 特別手話講座	30,000 30,000	48,628★ 53,160★
盲ろう者通訳介助料(交通費含む)★	学習会 特別手話講座	20,000 20,000	0 29,222★
託児料 ★ (交通費含む)	特別手話講座 1名+学生ボラ6名	0	26,000★
託児保険料	特別手話講座	0	1,000
弁当代	特別手話講座	30,000	31,550
次年度会費割引 チケット	特別手話講座 500円×65人	0	32,500
事務用品費	特別手話講座	3,000	1,652
会場費	学習会	6,000	10,880
雑費		0	1,148
合計		233,000	304,000

*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

3、送付必要書類

- ① 福祉活動助成金 助成活動報告書
プリントアウトしたものを1部郵送、データもメールでお送りください。
- ② 領収書のコピー (郵送)
- ③ 成果物 (活動の様子がわかる写真、または事業で作成したものを郵送)
*写真は郵送とメールで送ってください。

2019年度 宮城県手話通訳問題研究会

第1回宮通研学習会 in サン・ファン

日時 2019年7月21日(日) 13:15~16:00

場所 石巻市保健相談センター

本日のながれ

- 13:15~13:20 開会行事、挨拶
- 13:20~15:15 学習会
- 15:20~15:45 ろう者の生きた手話を学ぼう
- 15:45~16:00 諸連絡 閉会

要約筆記は、みやぎ生協福祉活動助成金のご協力により実施しています

2019年度 特別手話講座

クロスロードから学ぶ防災！ & 手話との半生を語る

2月9日（日） 10：30～16：00

仙台市福祉プラザ プラザホール

講師：全国手話通訳問題研究会 理事・事務所長 浅井 貞子氏

令和最初の特別手話講座が、2月9日（日）に仙台市福祉プラザのプラザホールで行われました。

当日は、今シーズンの最低気温を更新するほど寒く、外出を控え室内で一日過ごすほどの、絶好の研修会日和となりました。

研修会には 60 名を超える方が参加し、今年度は未会員の方が 3 分の 1 を占めるなど、来年度の会員増を期待出来そうです。



宮澤会長の挨拶

午前中は、全通研三重支部が作成した「クロスロード（聴覚障害者編）」（災害を通して学ぶ）を使用して、グループに分かれ問題に対して自分の意見をマル、バツで表明し、お互いの意見を出し合い、討論を行いました。この「クロスロード」は、正解を出すのではなく自分の意見を出し、他の方の意見を聞き、様々な考えを得た中でよりよい結果を導くもので、災害が起きた時の咄嗟の判断力を養うのに適しているとの事でした。全部で3問行い、それぞれのグループでは笑い声も起き



クロスロード



グループで様々な意見を聞きました

るなど、大変盛り上がりました。

午後からは、全通研（全国手話通訳問題研究会）の理事・事務所長の浅井貞子さんより、「手話との半生を語る」をテーマに講演をいただきました。

全国で一番長い歴史を持つ京都の手話サークル「みみずく」での活動、日聴紙（日本聴力障害新聞）や全通研での仕事を通して、様々なろうあ運動を経験され、手話学習者が歴史として学んでいるものの多くを実際に経験されており、とても貴重なお話をいただきました。

全通研の初代運営委員長の伊東雋祐さんや、二代目の市川恵美子さんのお話を懐かしく聞かせていただきました。宮城県内でお二人にお目にかかったことのある現役の方は少ないかもしれません。

後半は、災害が起きた時の手話通訳派遣をされたお話でした。25年前の阪神淡路大震災、9年前の東日本大震災をはじめ、地震や台風などの自然災害では、ろう者だけではなく手話関係者も被災しており、現地に手話通訳者を派遣するための通訳者の確保や予算等、一般的になかなか知る機会のないお話を多く伺いました。



全通研の生き字引 浅井氏

大きな災害が起きた場合に、情報弱者であるろう者へのケアの大切さを改めて感じ、手話通訳者を含めた手話関係者の重要性を再認識しました。

最後に全通研長期ビジョンとして「きわめる（調査・研究）・たかめる（資質向上）・はたらきかける（運動課題の提起）」の3つのキーワードには、全通研という組織での活動だけでなく、会員の個人個人も考えながら活動しなくてはいけないと感じました。

今年はインフルエンザにも増して、新型コロナウイルスの心配をしながらの参加は勇気が必要だったかもし

れません。

「^{うっ}伝染らない・^{うっ}伝染さない」を合言葉に、新年度も皆様にお会いできることを期待しています。

企画局 佐藤



より良い通訳のために
開始前に通訳者はストレッチ！



より良い学習・活動のために
休憩時間にみんなでストレッチ！

みみずくの活動と、ろう関連の歴史が連動しており、勉強になった。もう少し早く聞いていれば、試験も少しはラクになったかも…

伊東先生の話聞いて、とても懐かしく、お元気な頃の事を思い出していました。

クロスロード、サークルでもやってみたいと思いました。質問集をぜひ欲しいです。

「クロスロード」は初めて知りました。安定している現在(今)と災害時では、感情は変化するだろうか、起こりうる事例は勉強になりました。



気になる書籍がたくさん！

自分がろう者だったら、自分がもし会長だったら、想像する程度のことはあったけれど、具体的に どう行動するだろうとは、真剣に考えたことがなかった。すぐに答えをだすのか、じっくり考えて 答えを出すのか…どちらでもなく人の意見、情報を聞いて、考えが変わることもあるし、それで良いのだと納得しました。